

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	在宅における看護と介護の連携に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	木村 綾
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	東野 定律
		所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	天野 ゆかり
	発表者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	木村 綾

講演題目	在宅における看護と介護の連携に関する研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p><u>研究の背景・目的</u></p> <p>団塊の世代が65歳以上となる2025年に向けたケアのあり方として「地域包括ケアシステム」の構築が目指され、その実現に向けては、医療と介護の連携強化や在宅要介護者に対する医療サービスの確保、多職種によるチームケアの推進などが示されている。</p> <p>しかしながら、現状の在宅ケアにおいては、医療や看護、リハビリテーション、介護などの専門性が分野ごとに高度化され、他職種との連携が難しい状況にある。</p> <p>従来の研究では、連携の評価に関して、「顔の見える関係尺度」（森田, 2013）、「医療介護福祉の地域連携尺度」（阿部, 2014）、「在宅ケアにおける医療・介護職の多職種連携行動尺度」（藤田, 2015）、「連携行動評価尺度」（筒井, 2005）の評価尺度が開発されてきた。これら尺度は、関係者の能力や関係者間の関係性、情報共有の度合いなど、捉える連携の強度は様々であり、また、個及び組織の実践（行動）のプロセスと、その結果の状態や関係性が混在して位置づけられている。</p> <p>そこで、本研究では、訪問看護師と介護職員の連携によるケア提供について明らかにすることを目的とした。</p> <p><u>研究対象・方法</u></p> <p>認知症高齢者グループホームにおいて看護職と介護職の医療連携を経験した訪問看護事業所の管理者を対象としたインタビュー調査（半構造化面接）を実施した。インタビューの内容は、訪問看護師と介護職員の連携によるケア提供の取組（行動）とした。</p> <p><u>結果</u></p> <p>面接で得られた逐語録の分析から、看護職と介護職による統合ケアの提供にあたり、「ケア提供における介護職との関わり」や「介護職との連携促進に向けた事業所内及び事業所外の取組」に係る訪問看護事業所の行動や実践、認識をコード化した。</p> <p>その結果、「看護職と介護職によるケア提供」について17のサブカテゴリーが生成された。</p> <p><u>今後の展望</u></p> <p>今後は、既存尺度を基に、得られた結果の妥当性の検討をしていく必要がある。</p>